

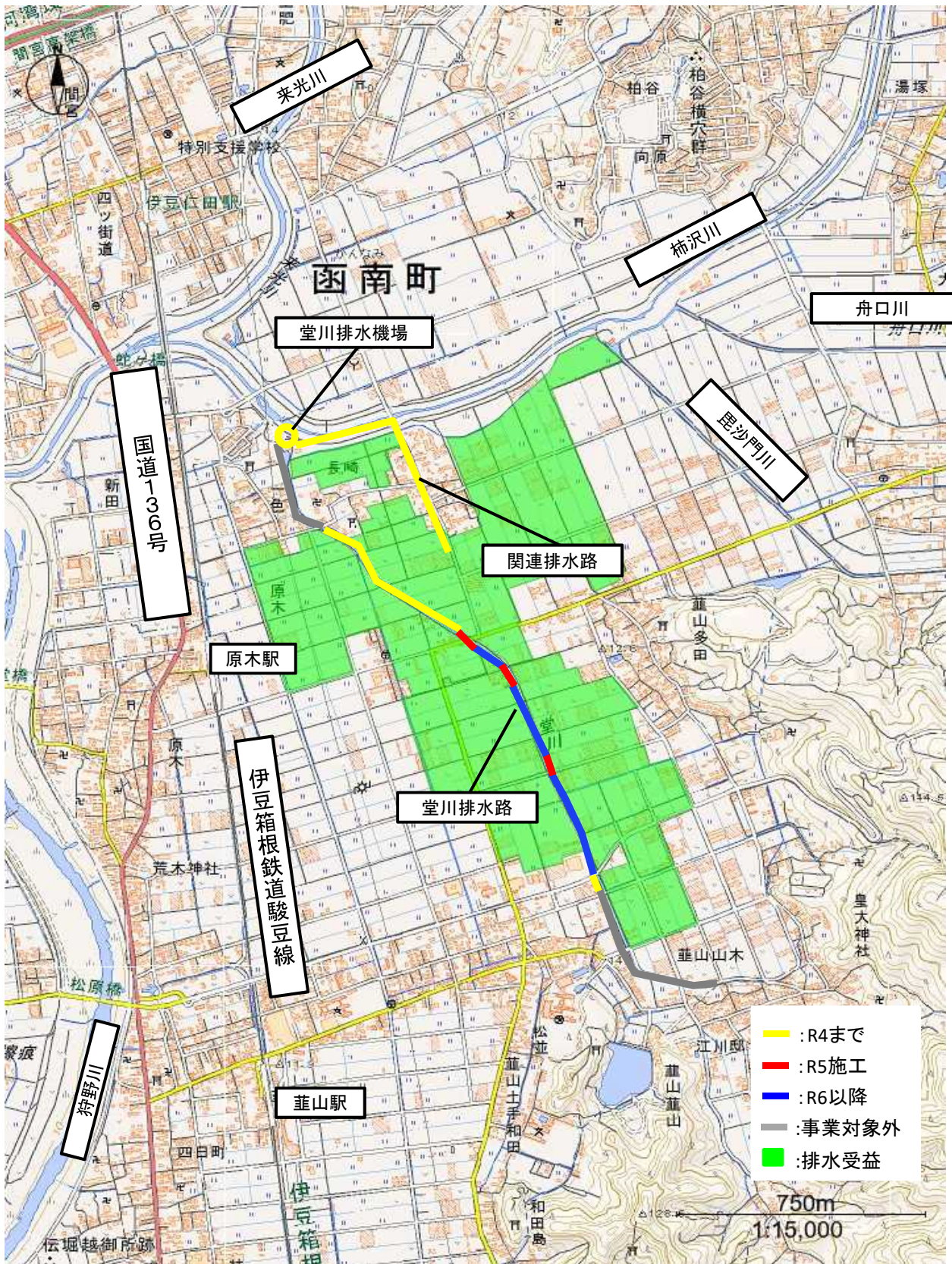
番号	3		令和5年度公共事業再評価調査			担当課名	農地保全課
事業名	農地防災事業			事業主体	静岡県		
地区名	柿沢川南部			関係市町	伊豆の国市		
事業採択年度	平成25年度		計画期間	平成25年度～令和9年度			
再評価理由	事業採択(H25)後10年間に経過した時点で継続中		工事着手年度	平成25年度			
事業費 (百万円)	全体計画事業費		R3年度まで	R4年度	R5年度見込	R6年度以降	
	1,637		720	126	84	707	
事業量	排水路工(堂川) 1,500m		506	156	200	638	
	排水路工(関連水路) 548m		548	0	0	0	
	排水機場工 1箇所		1	0	0	0	
事業概要	<p>(1)事業目的 流域内の開発の進行に伴い生じた流出量増加による排水路の通水断面不足の解消と、耐震性が確保されていない排水機場の耐震補強により安定した稼働状態を確保することで、周辺農地や宅地等の湛水被害軽減を図る。</p> <p>(2)事業内容 受益面積：92.3ha(水田68.9ha 畑：24.3ha) 排水路工(堂川)：延長1,500m 排水路工(関連水路)：延長548m 排水機場工：排水機場耐震補強工 1箇所</p>						
【視点1】 事業の 必要性等	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 本地区は、狩野川、来光川及び柿沢川に囲まれた低平地であるため、これまで湛水防除事業により排水機場等が整備されてきた。しかし、地域の幹線的な排水路である堂川が、整備から30年以上が経過し老朽化が著しいとともに、流域内の開発により流出量が増大し、近年の頻発化、激甚化する豪雨の際には甚大な湛水被害が発生していることから、排水路等の早期整備が急務となっている。</p> <p>(2)事業の投資効果 総便益(B)：6,711,450千円 総費用(C)：4,249,460千円 総費用総便益比(B/C)：1.57 経済的内部収益率(EIRR)：10.2%</p> <p>(3)事業の進捗状況(R5年度末見込み) R6年度以降残事業 事業費ベース進捗率：56.8% 排水路工(堂川)：638m 事業量ベース進捗率：62.9% 排水路工(関連排水路)：0m 排水機場工：0箇所</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】 今後の 事業の進捗 の見込み	<p>排水路工(関連排水路)及び排水機場工は、工事が完了しており、排水路工(堂川)についても、令和5年度末には約6割が完了する見込みである。今後は残施工区間を大きく3区間に分け、毎年度それぞれの区間を計画的に施工することで進捗率を上げ、令和9年度までに完成する見込みである。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】 コスト削減・ 代替案立案等 の可能性	<p>現場の地盤状況(軟弱)等を考慮し、仮設工法を含め、排水路の形式、構造を経済性及び施工性の観点から再検討することにより、コスト削減と施工性の向上を図る。</p>						
対応方針	<p>(1)対応方針 本事業を(<input checked="" type="radio"/> 継続) 見直し後継続 ・ 中止)する。</p> <p>(2)理由 排水路工、排水機場工の整備により、受益内の湛水被害が低減されており、地域からも早期完成を望む声が上がっている。また、営農者の営農意欲が高まり、営農の継続、新規就農者の増、高収益作物(いちご、トマト)の作付け等が図られている。 本事業により、湛水被害が軽減されることで安定した農業経営が図られることから、事業の早期完成を目指していく。</p>						

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地保全課

事業名	農地防災事業	地区名	柿沢川南部 (かきさわがわなんぶ)
効果の算定			
総 便 益 額 の 内 訳	維持管理費 農地防災事業 排水路工整備、排水機場建屋の耐震対策を行っても、排水路の草刈や排水機場の電気代、年次点検費用が発生する。 [便 益] = -120,298 千円		
	災害防止効果（農業関連資産） 機場 排水機場建屋の耐震対策を行うことで、建屋の倒壊に伴う排水機能の喪失が防げるため、農作物被害、農地における土砂 流亡や土砂堆積、農業用施設（ビニールハウス）の倒壊等の損失を低減できる。 [便 益] = 2,353,436 千円		
	災害防止効果（農業関連資産） 排水 排水路の整備を行うことで、受益地の湛水被害を軽減できるため、農作物被害、農地における土砂流亡や土砂堆積、農業 用施設（温室、ビニールハウス）の倒壊等の損失を低減できる。 [便 益] = 1,857,077 千円		
	災害防止効果（一般資産） 機場 排水機場建屋の耐震対策を行うことで、建屋の倒壊に伴う排水機能の喪失が防げるため、家屋や営業所の湛水被害や営業 停止損失等を低減できる。 [便 益] = 1,352,997 千円		
	災害防止効果（一般資産） 排水 排水路の整備を行うことで、受益地の湛水被害を軽減できるため、家屋や倉庫等の湛水被害による損失を低減できる。 [便 益] = 898,006 千円		
	災害防止効果（公共資産） 排水 排水路の整備を行うことで、受益地の湛水被害を軽減できるため、県道や市道の湛水被害による損失を低減できる。 [便 益] = 370,232 千円		
総便益	$-120,298 + 2,353,436 + 1,857,077 + 1,352,997 + 898,006 + 370,232 = 6,711,450$ 千円		
総費用	4,249,460 千円		
① 事業着手時の資産価額	1,471,852 千円	(既施設の資産額を減価償却により整理)	
② 当該事業費	1,650,879 千円	(当該事業で整備する施設費用)	
③ 関連事業費	0 千円	(当該事業に関連する施設の費用)	
④ 評価期間における再整備費	1,401,372 千円	(工事期間+40年の評価期間内の再整備費)	
⑤ 評価期間終了時点の資産価額	274,643 千円	(工事期間+40年の評価期間終了時の資産額)	
総費用=①+②+③+④-⑤	4,249,460 千円		
総費用総便益比			
① 総便益	6,711,450 千円		
② 総費用	4,249,460 千円		
総費用総便益比 =	1.57		

位置図 農地防災事業 柿沢川南部地区



位置図

ため池等整備事業 柿沢川南部地区 計画一般図



- : R4まで
- : R5施工
- : R6以降
- : 事業対象外
- : 排水受益

実施前の湛水状況 (H19.9.6 台風9号) 24時間雨量 (撮影日H19.9.7) 219mm

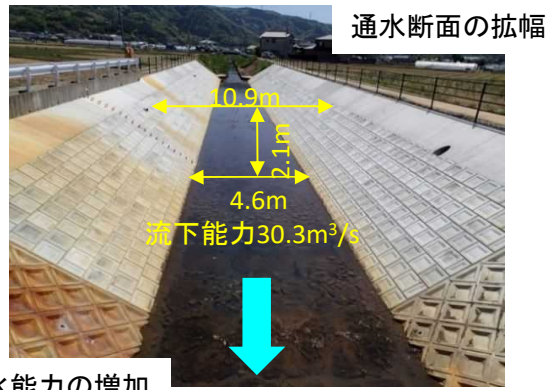


施設の状況

堂川排水路



拡幅改修による排水能力の増加



関連排水路



バイパス水路の施工による流入河川の排水不良改善



堂川排水機場耐震

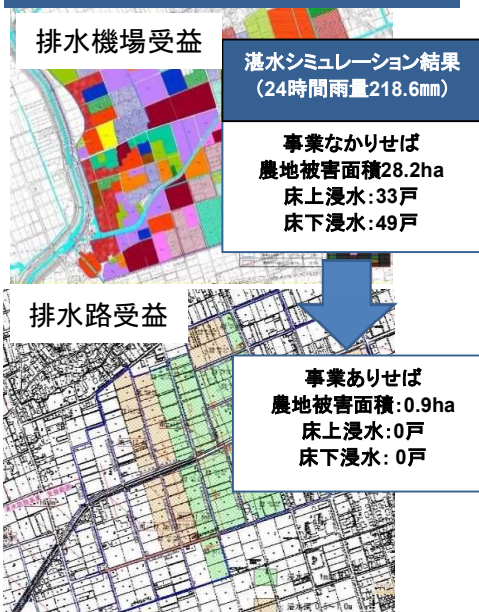


屋根面補強による耐震性の確保



効果の発現状況

湛水シミュレーション (1/10確率)



農業生産、新規就農等

【高収益作物の導入】
排水改良によりいちごやトマト用のビニールハウスが新築されている(H25以降 10棟)

【新規就農者の増】
農業に対する生産意欲が高まり新規就農者が増えている(H25以降 9人)

新築状況(R5.1.31撮影)



【果菜類】 作付面積・出荷量 推移

